

長崎の 主な産業。

長崎県の産業は、造船業を母体として成長・発展を続けてきました。加えて県外から本県へ立地した半導体などの先端機器製造業等の成長と、県内各地域に受け継がれてきた食料品や陶磁器等の伝統的産業などにより、本県経済は支えられています。

長崎県は古くから造船業により発展してきましたが、それに伴い、タービン、ボイラーなどの産業用機械製造業や金属加工業もあわせて成長し、産業の基盤が形成されていきました。その後、県内各地での工業団地の整備等により、CMOSイメージセンサーをはじめとする半導体デバイス、デジタルカメラ等の電子機器、食料品、自動車関連機器等の製造企業・事業所の立地、集積が進み、これらが順調に成長することで、現在の本県産業は形成されています。一方、島原手延そうめんや五島手延うどん、壱岐焼酎といった特色ある食料品や波佐見・三川内の陶磁器等、現在でも全国指折りの出荷額を誇る伝統的産業が県内各地において脈々と受け継がれ、本県の経済を支えています。

1. ドックで建造中の貨物船。貨物船の建造には多くの鋼板の溶接が必要。下は鋼板を溶接する作業員。〔出典：(株)大島造船所〕
2. 先端機器製造工場風景と製品／多くのスマートフォンやカメラ等に搭載されているCMOSイメージセンサーとそれを製造する工場内の風景。このセンサーにより、高速、高精細、高感度化を実現している。〔出典：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)〕
3. 島原手延そうめん／本県の伝統的産業である島原手延そうめんの製造風景。小麦に塩水を混ぜ合わせる「こね」の工程から数えて、完成まで12の工程、時間にして約30時間が必要。

今後の 成長産業。

AI・IoT技術の進展により、世界規模で産業のあり方が根本から変わっていく過渡期にあります。また同時に、これまで以上に持続可能な形で社会の発展が求められている時代ともいえます。本県においても、時代の変化へ適応し、産業・社会が進化しつつ成長していくことが求められています。

時代の変化に適応し成長する本県産業を目指し、次の産業の創出・育成へ向け、地場企業支援、企業誘致、創業・起業支援などの施策を重層的に実施していきます。このうち企業誘致に関しては、半導体、航空機、医療関連等の成長分野の製造拠点に加え、設計や研究開発部門、システム開発などの情報関連産業等を主なターゲットとして取り組みます。

- ① 造船業で培った技術力や人材を生かすことができる洋上風力発電や潮流発電等の海洋再生可能エネルギー関連産業
- ② 産業や社会生活へのAI・IoTの導入による生産性向上やイノベーションの創出を支える、ロボット製造やそれらに組み込むシステム開発などのロボット・IoT関連産業
- ③ 世界的な市場の成長と高度な技術力が求められる航空機関連産業

1. 浮体式洋上風力発電所(五島市沖)／2013年に環境省実証事業にて五島市稚島沖に設置し、現在は崎山沖に移設後、国内初の浮体式洋上風力発電として運転中である。今後民間事業者により国内初の浮体式洋上ウィンドファームとして、新たに8基の風車が設置される予定(2024年運転開始予定)。
2. 仕分けロボット／県内企業が開発した仕分けロボット(主に食品製造業向け)の一例。2018年に設立した長崎県次世代情報産業クラスター協議会を中心に、ロボットやAI・IoT等の先端技術を県内企業の技術者が学び直すための講座の実施や、企業間の連携促進等に取り組み、新商品や新サービスの創出支援などにより県外需要の獲得を図る。〔出典：(株)杉原エンジニアリング〕
3. ジェットエンジンと構成部品／2018年、ジェットエンジン部品を製作する企業など県内59の企業・団体により、長崎県航空機産業クラスター協議会が発足。企業間連携の強化によるさらなる成長を目指す。〔出典：3-1, 双日エアロスペース(株), 3-2, 経済産業省講演資料, 3-3, (株)ウラボ〕
4. クレーンハーバー長崎ビル／長崎港に臨むウォーターフロントに県等が整備したオフィスビルで、保険会社等の誘致企業が入居。今後もIT系、研究開発部門等の誘致を進める。この他、長崎市内を中心に複数のオフィスの建設が進んでいる。

Industries in Nagasaki

